



イイケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 691 回 「IoT」の覇者を目指す、孫正義氏？

2016.7.24

ソフトバンクがイギリス・ケンブリッジに本社を置く半導体知的所有権会社、「ARM ホールディングス」を、およそ 3 兆 3,000 億円で買収すると発表した。

事実なら、日本企業による海外企業を買収としては、過去最大規模となる。

「ARM」は基本的には半導体メーカーではなく、半導体回路の設計会社である。「ARM」の事業規模そのものは、それほど大きくはない。2015 年 12 月期の年間売上高は約 1,790 億円、税引き前利益は約 770 億円であるが、株式時価総額が極めて高い、将来性のある優良企業だ。2016 年 6 月時点での「ARM」の株式時価総額は、2 兆 2,000 億円に達し、冒頭の巨額買収額となったようだ。

買う側のソフトバンク、2016 年 3 月期の年間売上高は 9 兆 1,535 億円、営業利益は 9,995 億円であるが、実はこの売上高、パナソニックを超えており、営業利益は日立製作所を超えている。(日立製作所の 2016 年 3 月期における売上高が 10 兆 343 億円、営業利益が 6,348 億円、パナソニックの同期における売上高が 7 兆 5,537 億円、営業利益が 4,157 億円である)

既に、日本を代表する巨大企業であるソフトバンクとはいえ、今回の 3 兆 3,000 億円の買収劇で、一体何を狙うのだろうか。

異色の経営者と言われる孫正義氏のソフトバンクグループは、PC 雑誌の出版から始まり、イギリスの携帯電話事業会社ボーダフォンの日本法人を 2006 年に買収して、携帯電話事業者(キャリア)となり、最近ではアメリカの携帯電話事業者 Sprint グループを買収したり、ロボット事業に参入したり、エネルギー事業に参入したりと、総合的な「インターネットの会社」の構築を目指してきた。

孫社長の、無謀ともいえる、今回の巨額買収の狙いは、「**パラダイムシフト**」にあるという。

「次の大きなパラダイムシフトは、間違いなく『IoT』になる。大きな賭けかもしれないが、そのために欠かせない半導体の技術を持つ『ARM』と力を合わせる必要がある」…ロンドンで開いた記者会見で、孫氏自身、そう、述べている。

モノのインターネットと言われる「IoT」(**Internet of Things**)、

パソコンやスマホなどの情報通信機器に限らず、すべての「モノ」がインターネットにつながることで、生活やビジネスが、根底から変わる世界の実現化、つまり、ユビキタスから「IoT」へである。

たとえば朝、目が覚めて身を起こしたとする。すると、ベッドに搭載された圧力センサーが働いて、あなたの起床をキッチンのエアコンとコーヒーマーカー、トースターに無線で知らせる。信号を受け取った機械は自らスイッチを入れて動き始める。顔を洗ってキッチンに入った頃には、あなたは快適な空調の中で、焼き立てのトーストと香り高いコーヒーの朝食を食べ始めるのだ。洗面台で測った体重データが、クラウド上のマイページに転送されている。タブレット端末でグラフの推移を見ながら、あなたは最近の運動不足をちょっと反省する…こんな映画のような世界。「IoT」の行き着く先は、手塚治虫の SF 世界の実現化になりそうだ。スマートハウス(鍵、照明、お風呂、エアコン等自由遠隔操作)、介護用ロボット、災害ロボット、無人工場、自動車の自動運転等、実際、一部は実証実験されている。

マッキンゼー・アンド・カンパニーによると、2025 年における「IoT」関連産業の規模は 3.9 兆から 11.1 兆ドルにのぼると予想、その応用分野の一位と二位に、医療介護と製造業を挙げている。

孫正義氏の野心は、古くは通信事業で、独占的地位を謳歌した日本電信電話公社(NTT)や、PC の覇者となった Microsoft と Intel、インターネット検索エンジンの標準となった Google と同様に、ソフトバンクと「ARM」が、「IoT」インフラを圧倒的に支えることが可能な、世界的企業となることを目指している。